

パソコンいわくら教室新聞

パソコンを購入してまず必要なソフトはワードやエクセル。マイクロソフトオフィスが一般的ですが…

パソコン購入時の注意

パソコンを購入する場合、最低でも次の部分を確認しておきます。高性能のものは、当然価格も高価になります。

ハードディスク

パソコンで作成したものを**保存**しておくもの。使用目的によって選びます。

(ビデオ編集をする場合やTV番組を録画する場合などはTB(テラバイト)単位のものがいいでしょう。)

CPU

パソコンの**処理能力**が決まります。動きの速いゲームや画像処理、ビデオ編集などを行う場合は高性能のCPUを選びましょう。

メモリ

パソコンが様々な処理を行うための**作業場所**。当然大きい方が操作のもたつきは少なくなります。メモリは後から増やすこともできます。

付属ソフト

オフィス系ソフトの付属や、その他にどんなソフトが付属しているのかをよく確認しましょう。
(シーや富士通などのパソコンには沢山のソフトが付属しています。)

安いからと安易に飛びつかないように。安さには必ず理由があります。よく確認しましょう。
また、ほとんどのことはフリーソフトで行えますが、「マニュアルがない」、「少し扱いづらい」「保証なし」と妥協して使う必要があります。

市販のソフトにはやはりありませんので、完成度を求める場合や、仕事用にはあまり向かないかもしれません。

安いパソコンの落とし穴

パソコンは一昔前に比べると、比較的安価で購入できるようになりました。安いものでは4〜5万円程度で購入できます。上位機種に比べると性能は少々劣るものの、以前と比べれば、比較できないほど高性能になりました。普段使いには十分です。

しかし、安いパソコンの落とし穴。安い理由の一つが「ワードやエクセル」が付属していない、ということ。安いパソコンを手に入れ、気分上々で使おうと思ったら…なんてこと。



マイクロソフトオフィス(ワードやエクセルの統合ソフト)は、購入すると3万円前後するソフトです。後で買う羽目になると、結局10万円前後になってしまった、ということになります。

パソコンを購入する場合は、案内などよく確認してからにしましょう。

いつでも登場、フリーソフト!!

安いパソコンをせっかく購入したのだからこれ以上の出費はしたくない、という場合にはやはり**フリーソフト**の出番ということになります。ワードやエクセルに代わるフリーソフトでは「**オープンオフィス(OpenOffice)**」があります。ワープロ、表計算、プレゼンテーション、データベース等、同様の機能を備えます。ソフトのイメージはMSオフィス2003バージョンに似ていますし、使い方もほとんどの機能で同じように操作できます。ワードやエクセルとも互換性がありますので、ファイルのやり取りも可能です。Windows用、Mac用、それぞれ用意されています。

(Macには、もうひとつオフィスソフトは付属していませんので、後で用意する必要があります。)



ブラウザ、メール、オフィスソフトとフリーソフトの紹介をしてきました。次月号ではデジカメ写真を管理するソフトについて取り上げたいと思います。

